

令和3年度 北海道羽幌高等学校 自己評価票（教職員） 集計

1月28日(金)実施 回答数20名

A:あてはまる＝4点 B:だいたいあてはまる＝3点 C:あまりあてはまらない＝2点 D:あてはまらない＝1点

領域		評価の観点	達成状況			取組の適切さ			改善に向けた取組
			平均	前期平均	前年平均	平均	前期平均	前年平均	
学校運営	組織運営	1 本校の学校教育目標や教育実践は、生徒の実態や保護者・地域住民の願いを踏まえたものとなっている。	3.40	3.40	3.42	3.37	3.40	3.37	○教育活動の根幹であり、今年度は意識した1年であった。 ○入学生確保(学校説明会・中学校訪問・HP更新)を強化すべき。 ○1時間の授業を大切に、その姿勢が保護者や地域に方々にも伝わるような教育を。 ○総探とLHRの時間の使い方を検討。 ○前年度反省を視覚的にいつでも確認でき、意識できる工夫が必要。 ○各分掌で意識すべき。
		2 育成を目指す資質・能力を踏まえ、学校内外の教育資源を活用した教育活動が実践されている。	3.55	3.25	3.26	3.42	3.35	3.32	
		3 前年度の学校評価や反省事項に基づいて、教育活動の改善を適切に行っている。	3.15	3.25	3.11	3.16	3.25	3.16	
	教職員と サービスの 資質向上	4 信頼される学校づくりに向けて、交通法規等の法令遵守や体罰防止など服務規律の保持及び危機管理に努めている。	3.40	3.60	3.63	3.37	3.60	3.53	○研修に積極的に参加すべき。 ○地域性を理解した指導法が必要と思います。 ○業務の偏りが見られる。平準化を期待。 ○BYODの推進に合わせ、教職員間で研修を行い、効率よい教育を実践すべき。 ○感染症対策の個人の感覚の差に疲弊しています。 ○リスクある行動を容認する事がないよう危機管理について問題意識を共有する。 ○部活動時間を守るべき。 ○未然防止として危機管理体制が急務である。(学校運営上、生徒指導上)
		5 研修を積極的に推進し、実践的指導力の向上に励み、資質向上に努めている。	3.35	3.20	2.95	3.37	3.05	3.05	
		6 効率的な業務の精選・遂行とそのスケジュール管理に努めるなどして、「働き方改革」を進めている。	3.10	2.80	2.63	3.11	2.85	2.79	
教育活動	総務・教務	7 学習シラバスを活用した授業展開や観点別評価により学習評価を適切に行い、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っている。	3.35	3.20	3.11	3.32	3.20	3.05	○職員からのHP更新が少ない。 ○教育活動において保護者とかかわる機会が少なかった。 ○家庭学習の取り組みを個人では行なった。いい取り組みであった。 ○家庭学習については教職員で考えるべき。(複数) ○コロナ禍で教育活動に制限がある。代替策を検討すべき。 ○classi配信は家庭学習にも有効である。 ○早期の進路選択が重要である。 ○評価方法を全体として確認すべき。 ○コロナ後のPTA活動の活発化について行けるか不安な先生方が多いと思います。活動の理解を深めたい。
		8 知識・技能の習得に加え、教科横断的に思考力や判断力、表現力などの活用学力を育む授業を実践している。	3.40	3.10	3.16	3.42	3.25	3.16	
		9 自主的・意欲的に学習(特に家庭学習)に取り組む習慣を身に付けさせる工夫を行っている。	2.90	2.85	3.16	3.21	3.00	3.26	
		10 HPやメール配信、各種通信等で本校の教育活動を外部に積極的に発信している。	3.30	3.30	3.68	3.32	3.40	3.68	
		11 学校行事の公開や地域の行事等への参加を通して積極的に地域や関係機関・他校種等との連携に取り組んでいる。	3.30	3.00	3.11	3.42	3.10	3.42	
		12 学校とPTAの連携が十分図られ、PTA活動も充実した取組になっている。	2.90	2.85	3.32	3.00	3.10	3.26	
	生徒指導	13 いじめ防止に向けた校内体制が確立されており、日常から生徒の状況把握及び未然防止・早期発見に努めている。	3.55	3.30	3.47	3.47	3.30	3.42	○教職員も積極的に町と交流すべきである。 ○生徒指導情報は学年間で情報共有すべきである。 ○生徒たちコロナ禍でできることを考えながら成長していた。 ○指導の仕方に違いがあっても良いが、考え方に違いがあるように思う。 ○生命、健康については常に意識して生徒と接してほしい。
		14 学校行事や部活動等を通して生徒が自ら考え仲間と協働する力を育てている。	3.50	3.45	3.37	3.42	3.40	3.58	
		15 各教科の授業や各種教室・講演会等を通して命や健康・安全の大切さを指導している。	3.55	3.40	3.53	3.58	3.40	3.47	
		16 ボランティア活動等の地域と連携した活動を通して自尊感情や自己有用感の高揚を図っている。	3.05	2.95	3.11	3.21	3.05	3.21	
	進路指導	17 生徒の自己実現に向け、3年間を見通した組織的・体系的な進路指導(キャリア教育)を行っている。	3.25	3.15	3.16	3.21	3.10	3.21	○1・2年生の進路指導にも重点を置くべきであった。 ○生徒の個人情報漏洩は十分気をつけなければならないが、進路希望や受験先、合否結果等を教職員へもう少し情報があっても良いと思われる。 ○もっと体系的な進路指導が必要である。
		18 収集・分析した進路情報を進路ガイダンスや保護者説明会などを通して生徒や保護者に適切に提供している。	3.35	3.40	3.26	3.42	3.35	3.21	
	道徳教育	19 教科等横断的な視点により学校教育全体で道徳教育に取り組んでいる	3.25	3.05	-	3.21	3.05	-	○講演会等で色々な方々との交流が増え、良かった。 ○道徳は大変ためになった。(複数) ○義務教育とのつながりが低い。 ○進捗状況が不明。 ○教科横断的な道徳教育を推進してほしい。 ○徳育は小学3年までに行うべき。
		20 地域の人材や関係諸機関と連携した道徳教育に取り組んでいる	3.20	3.05	-	3.32	2.90	-	